

SHINKO MUSIC MOOK [連載コラム] さいとうさんに聞け(SPI) / 音の正体 / 今さら人に訊けないエフェクターの使い方(Crews) / 攻撃する機械(M.A.S.F.)etc...

# EFFECTOR

音作りに執念を燃やすこだわり派のためのエフェクター・マガジン

book

VOL.20  
SCREAMIN'  
SUMMER  
2013  
ISSUE

特集2:

## Jam Pedals

ギリシャ製ハンドメイド・  
ペダルが示す温故知新

### INTERVIEW

ミト(クラムボン)  
Mesa/Boogie  
Walrus Audio etc.

### PEDAL BOARD PROFILING

Band Of Horses  
THE NOVEMBERS

特集

# ESSENTIAL OF OVERDRIVE

名ビルダー14人が語るオーヴァードライブの現在 (VEMURAM、Shun Nokina etc.)

歪みの音響学 / 9V電池で音は変わる! / 中野 豊直伝! サウンドメイクのウラ技



THE EFFECTOR BOOK SPECIAL PART 2

# JAM PEDALS

**アーティスティックな空気を身に纏ったギリシア製ペダル**

モダン・アートを思わせる外観、古い機材への深い愛情を感じさせつつも  
現代的な解釈を加えられた音色……。ギリシアから届けられたホットなペダルに焦点を当てる。

取材、構成、文●長谷鉄弘 Tetsuhiro Nagaya 協力●Jam Pedals 株式会社 黒澤楽器店 (☎03-5911-0611)





ヤニス・アナスタサキス インタビュー

# interview Jannis Anastasakis

## アナログ・ペダルにはまだ大きな可能性が秘められています

ギリシャ発のブティック感覚溢れるメーカーを運営するのは、29歳の若きビルダー／デザイナーだ。そのアナログ・エフェクターへの愛と現代的な感性が、比類なき個性を製品に与えている。

### 初めて触れたギター・エフェクターは BOSS“CE-2”でした

——あなたの出身地と生年、ヤム・ペダルにおけるお仕事の内容を教えてください。

**ヤニス・アナスタサキス**(以下JA):私は1984年、ギリシャのヨアニナ(編注:Ioania／アテネから北に200kmほど行ったところにあるイピロス地方の首府で、その発祥を6世紀頃まで遡る)で生まれました。現在はヤム・ペダルのオーナーであり、デザイナー／ビルダーです。

——あなたが最初に触れたギター・エフェクターはどんなものでしたか？ また、あなたがエフェクターに興味を抱き始めた頃、好んで聴いていた音楽は？

**JA:**私にとって初めてのエフェクターは、13歳の時に買ったBOSS“CE-2”でした。当時はロックが大好きで、特にピンク・フロイド、レッド・ツェッペリン、キャメルなどをよく聴いていましたよ。

——ギリシャにはヤム・ペダルの他にもエフェクター・メーカーがいくつかある、またはあったのでしょうか？ 過去～現在に至るギリシャの電子楽器事情について聞かせて下さい。

**JA:**私の知る限りでは、現在、ギリシャにはヤム・ペダルの他にも2社のエフェクター・メーカーがありますが、初めて国産エフェクターを製作し、それを海外にも輸出したのは私たちだったと思います。幸運にも、今では多くのギリシャのミュージシャンたちがヤム・ペダルを使ってくれています。

——電子回路の設計や製作に関する知識・技術はどのようにして身につけましたか？

**JA:**私はアテネの国立工科大学……電子工学やコンピュータ・エンジニアリングについて教える学校です……に通い、主にアナログ・エレクトロニクスについて学びました。電子回路の設計～製作に関する基礎知識はそこで得ることができましたが、エフェクター製作にまつわる研究や実験にはまたかなりの時間を費やす必要がありましたね。

——ご自身で初めて設計・製作したエフェクターについて聞かせて下さい。

**JA:**初めて作ったのは“Rooster”だったと記憶し

ています。これはデザインが比較的、容易なトレブル・ブースターで、最初に製品化するモデルとしては最適でした。ただし、設計がシンプルであるか複雑であるかと、“いい音が出るかどうか”は別の次元の話で、このモデルは発表後も数回に渡り、細かな部分を改良されています。

——ヤム・ペダルは何年に創立されましたか？ また、創立当初の製品ラインナップについても教えていただけますか。

**JA:**先ほどの“Rooster”を完成させたのが2005年で、ヤム・ペダルを創立したのが2006年です。当時の製品ラインナップは、“Rooster”と“WaterFall”コーラスのみでした。

——ヤム・ペダルを立ち上げた時、あなたはどのようなペダルを作りたいというコンセプト、あるいは理想を持っていましたか？

**JA:**冒頭でお話したように、私は他の多くのギタリストと同様、BOSS製品を入り口にしてコンパクト・エフェクターに興味を抱くようになりました。そうしてエフェクター全般について学び始めたところ、アナログ・ペダルにはまだまだ多くの可能

性が秘められていることに気づくとともに、既製品ではどうしても好みの音が作れなかったり、望まない帯域のフリーケンシーがプラスされてしまうことにも気づかされたんです。その頃の私はすでに学校でエレクトロニクスを学んでいましたから、自分でコンパクト・エフェクターを設計することができました。すると、すぐに私が尊敬する偉大なギタリストたちからカスタム・メイドを依頼されるようになりました。私はその時、ただ自分のためにエフェクターを作るだけでなく、それ以上のことができるに違いないと思ったんです。それがヤム・ペダルを立ち上げた理由であり、ブランドのコンセプトでもありました。



▲ヤム・ペダルの経営者であり、すべての製品の回路設計を手がけるヤニス・アナスタサキス氏。29歳の若きビルダー／デザイナーだ。

### 1960～70年代のサウンドを得るため 古いタイプの電子部品を積極的に使っています

——現行製品について聞かせて下さい。“Tube-Dreamer”オーヴァードライブの回路基板を見ると、カーボン・コンポジション・レジスターやタンタル・キャパシターといった古風な電子部品が使われていることに気づきます。これらのパーツを積極的に用いる理由は？

**JA:**私がエフェクターを作り始めた時、ひとつの目標としていたのが、60～70年代のロック・アルバムで聴ける音を再現することだったからです。あのサウンドを得る秘訣は、古いパーツにある

んですよ。しかし、それらの古いパーツは現在では生産が終了していることも多いので、私は“NOS”トランジスター〜チップを積極的に使っています。——一方、“Red Muck”ファズではレジスターやキャパシターによりモダンなタイプが選択されているように見えます。モデルによってレジスターやキャパシターのタイプを変えることで、どのような効果が得られますか？

**JA:** “Red Muck”ではレジスターにカーボン・フィルム・タイプを使用していますが、これは結果として出力される音色が良かったからです。しかし、最終的な判断は常にユーザーの耳に委ねられていると思います。

——“Delay Llama”ディレイと“WaterFall”コーラス／ヴィブラートは、どちらもBBDチップを搭載しています。今日ではDSPテクノロジーを駆使してBBD素子の動作をモデリングするエフェクターも多いですが、それでもなお“本物の”アナログ回路は魅力的だと感じますか？

**JA:** まさに。“本物の”アナログ・サウンドには、他の何物にも代えがたい魅力があります。

——余談ですが、“Delay Llama”のモデル名は、00年代初頭よりDAWソフトウェア用プラグイン・インストゥルメントとして無料で頒布されてきた“Delay Lama”（開発元＝AudioNerdz／ユニークなアニメーションとともにチベット僧の歌唱を再現する）を思い起こさせます。このソフトウェアから何らかのインスピレーションを得たことは？

**JA:** “Delay Llama”というモデル名は、製品ができたばかりの頃に友人が考えてくれました。とてもユニークで、ユーモラスな名前だと思いましたよ！ 実はその後、1年ほどしてから誰かが

“Delay Lama”プラグインのことを教えてくれたんですが、商品名は変えずに行くことにしました（笑）。

### 外観からその中身を想像できるようなエフェクターを作りたい

——webサイトのギャラリー・コーナーを見たところ、いくつかの個体はユニヴァーサル基板を用いたポイント・トゥ・ポイント・ワイアリングで作られているようですね。この工法にどのようなメリットを見出していますか？

**JA:** 理論上、コンポーネント同士を直にハンダづけした回路の方が、PCBボードを用いる回路と比べて電気抵抗が小さくなり、シグナルがピュアになります。サウンドに関するメリットはプレイヤーの判断に委ねたいと思いますが、私たちはPCBボードを用いた回路との音色の違いを認識していますし、見た目の格好良さにも魅力を感じています。ポイント・トゥ・ポイント・ワイアリングはあくまでもオプショナル・サービスですが、可能な限りこれを提供していきたいですね。

——サウンドはもちろん、ひとつひとつのパーツにまでヴィンテージ・ペダルへの愛情が感じられるところがヤム・ペダルの魅力ですが、一方、“Delay Llama +”ではエクスプレッション・ペダルを用いた“DELAY TIME”パラメーターのリアルタイム・コントロールに対応するなど、新たな実験も試みられています。こうしたユニークなアイデアは、どのようにして生まれるのでしょうか？

**JA:** エクスプレッション・ペダル端子を追加するアイデアは、“Delay Llama”の完成後、すぐに思いつきました。私自身、しょっちゅう床に跪いて

“DELAY TIME”ノブを操作していたもので…（笑）。

——英米のプレイヤーから高い評価を得ている“Wahcko”ワウ・ペダルも、ヴィンテージ・サウンドに敬意を表しつつ、フィルター・レンジを変更するスイッチやペダルを踏み込む際に感じる重さ”を微調整する機構を備えたりと、新しい要素が盛り込まれています。古いサウンドと現代的な扱いやすさを融合させることがヤム・ペダルの使命のひとつだと考えていますか？

**JA:** はい。“モダンなアイデアを取り入れたヴィンテージ・サウンド・エフェクター”こそ、私たちの製品が目指すところですよ。そのためには操作性、耐久性、構造といったファクターも重要になってきます。——複数のペダル回路をひとつのケース／シャシーに集約した“Custom Multi-Pedals”は、どのような需要を想定した製品ですか？

**JA:** “Custom Multi-Pedals”は、主にライブを頻繁に行なうプレイヤーや、ツアーが多いプレイヤーを対象にした製品です。サウンド・クオリティの面で妥協することなく、エフェクト・システムをよりコンパクト、かつ軽量にできます。“Custom Multi-Pedals”では最大12個のエフェクトをひとつのケース／シャシーに集約することができますが、その場合でも設置面積はほぼコンパクト・エフェクター5個分、重さも約2.5kgに抑えられます。もちろん、12個のペダルを結線する手間が省けますし、マルチ・パワー・サプライも必要ありません。セットアップの時間を驚くほど短縮できますよ。

——モダン・アートのようなでもあり、時に古代の壁画のように見えるグラフィック・デザインも、ヤム・ペダルの魅力のひとつだと思います。ケース・デザ

## Jam Pedals Artists

ブティック感覚溢れるフィニッシュを施されたケースから、ヴィンテージ・エフェクターへの深い愛情とモダンなオーディオ特性を両立させたサウンドを生み出すヤム・ペダル。日本での知名度こそまだ低いものの、同ブランドは欧米ですでに



高い評価を得ており、ビル・フリゼール（左）、デイヴィッド・イダルゴ（中）、ジェフ・バーリン（右）、ドゥイーゼル・ザッパ、スティーヴ・ルカサー、ブラッド・ウィットフォード、ドイル・ブラムホールら、一筋縄では行かないエフェクトの使い手たちを顧客リストに見出すことができる。



インやプリント技法におけるこだわりについて聞かせて下さい。

**JA:** 私は、ペダルの外観からその中身を想像できるようなエフェクターを製作したいと常に考えていました。設計とデザインの調和には、多いにこだわっています。美術品のようなグラフィックを生み出してくれるアーティストたちと巡り合うことができたのは、私にとって幸運でしたね。

——webサイトのアーティスト・コーナーには、ビル・フリゼール、デイヴィッド・イダルゴ(ロス・ロボス)、ドゥイーゼル・ザッパ、ジェフ・バーリンらユニークなエフェクターの使い方をする名手たちが並んでいます。彼らとのやりとりから刺激を受けて、新しいアイデアが思い浮かんだりすることはありますか？

**JA:** 彼らのような偉大なミュージシャンからは、常にインスパイアされていますよ！ 彼らから得たインスピレーションを、彼らのもとにフィードバックすることが私の使命です。

——今日のヤム・ペダルは、月に何台くらいのペースで製作されていますか？

**JA:** 毎月、可能な限りの台数を生産しています。生産数が増しても、サウンドや外見の美しさといった品質の部分で妥協はしません。

——ヤム・ペダルでは今後、どのような製品を新たに開発していきたいと考えていますか？

**JA:** 発表したばかりのスーパー・トレモロ“The Big Chill”には、私たちのコンセプトがよく表現されていると思います。新しいアイデアは対応しきれないほどありますので、近々、新製品をお目に



▼すべての製品はギリシャの工房でハンド・メイドされる。トランジスタやオペアンプICはもちろん、レジスター、キャパシターといった細かな電子部品にまで及ぶこだわりがヤム・ペダルのサウンドを支えている。



かけることができるはずですよ。

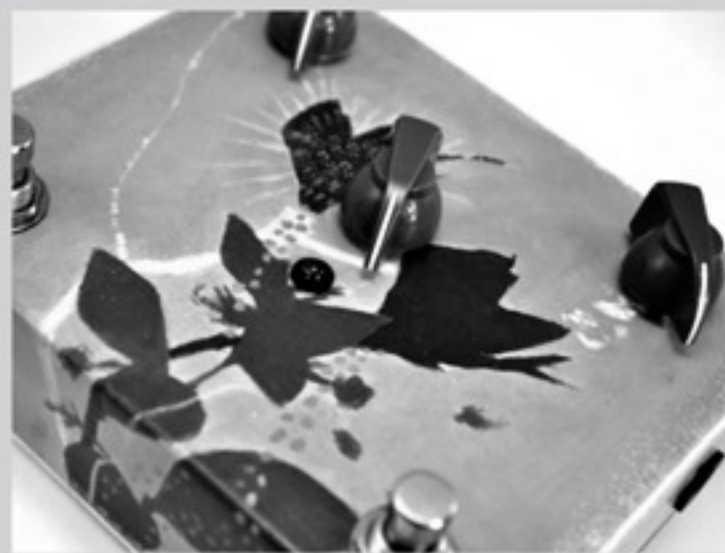
——日本には、まだギリシャ製ペダルに触れたことのないプレイヤーがたくさんいると思われます。彼らに向けてメッセージをどうぞ。

**JA:** 私たちの製品を愛用してくれているアーティストのコメントや、彼らの音楽にぜひ耳を傾けて下さい。それらはきっと、私の言葉よりも遥かに雄弁にヤム・ペダルの魅力を語ってくれるでしょう！

## Jam Pedals Custom-Shop

モダン・アートのようにでありながら、時に古代遺跡から発掘された壁画のようにも見えるグラフィック・フィニッシュは、ヤム・ペダル製品の個性を引き立てる要素のひとつ。同社ではデニス・アンジェラキ(左)を始めとするアーティスト・チーム／カスタム・ショップが自由な発

想のもとにケース・ペイントを行っており、その“作品”をウェブ・サイト上のギャラリーで見ることが出来る。モデルごとに異なる色に染められた布袋とブランド・ロゴを印刷したピックは、全製品に付属するアクセサリー。





## ヤム・ペダル 現行製品紹介

# Jam Pedals Line-ups

ここからは2013年5月時点で販売されているヤム・ペダルの現行製品を紹介していこう。カラーでお見せできないのが残念なほど凝りに凝ったフィニッシュは店頭で確認して欲しい。

## Jam Pedals TubeDreamer [Overdrive / Double Overdrive]

電氣的過負荷生成器は真空管の夢を見るか？



▲ TubeDreamer 58

▲ TubeDreamer 72

[Specifications] ●コントロール: Level, Tone, Gain (+のみ High Gain ChannelのLevel, Tone, Gainを追加) ●スイッチ: ON/OFF, High Gain Channel (+, 88のみ) ●端子: Input, Output ●サイズ: 72及び58 = 60mm (W) × 111mm (D) × 32mm (H)、+及び88 = 94mm (W) × 120mm (D) × 30mm (H) ●電源: 006P (9V電池) / 9VDC ●価格: Open Price (実勢市場価格: 58 = ¥17,850、72 = ¥19,950、+ = ¥22,050、88 = ¥27,300)



▲ TubeDreamer +

▲ TubeDreamer 88

“TubeDreamer”シリーズはアイバニーズ“Tube Screamer”に端を発する伝統を強く意識しつつも、現代的な解釈を加えられたトーンを特徴とするオーヴァードライブで、そのラインナップはオペアンプに“JRC4558”を採用した“58”、型番非公表の“シークレット・チップ”を搭載する“72”、“72”に“HIGH GAIN”スイッチを加えた“+”、“58”と“72”の回路を1台に集約した“88”からなる。試奏したところ、“72”よりも“58”の方がややブライトで、ピッキング・ニュアンスがよりダイレクトに出力される印象を受けたものの、シングルコイルのリア・ポジションでも耳に痛い帯域が抑制されているが、ミッドに“鼻をつまんだような”嫌味がない特性は全機種で共通していた。“TS”のウォームさと、今日の機材に求められる繊細なレスポンスとをバランス良く同居させたシリーズと言える。

## Jam Pedals Fuzz Phrase [Germanium Fuzz]

古のファズの質感と幅広いダイナミックスを両立



[Specifications] ●コントロール: Level, Gain, Internal BIAS Trimmer ●スイッチ: ON/OFF ●端子: Input, Output ●サイズ: 60mm (W) × 111mm (D) × 32mm (H) ●電源: 006P (9V電池) / 9VDC ●価格: Open Price (実勢市場価格: ¥27,300)

トップ・パネルに“紫の煙”を背にした伝説的なギタリストの肖像を描き、その口の部分にフット・スイッチを取り付ける(!)という挑発的な意匠が目目を引くゲルマニウム・ファズ。グラフィックとモデル名が表わすように、本機が下敷きにしているのはジミ・ヘンドリックスが1960年代後半に愛用した“Fuzz Face”の回路で、トランジスタには往時のダラス製ファズに多く採用された“OC44”のミリタリー・スペック版に当たる“CV7003”を選別の上、採用している。実際に音を出してみると、ゲルマニウム・ファズらしいハイ・テンション、かつ“エグイ”歪みにニヤリとさせられ、5・6弦が“ジュー”と言う感じや、サステインが独特のうねりを伴いながら“スツ”と落ちていく感じも実にそれらしいが、猛烈に圧縮されながらもヒステリックな高域を含む幅広いレンジがしっかりと出力されている様はモダンなペダルならではの。

▼故ジミ・ヘンドリックスの口に機械式フット・スイッチを突っ込んだようなグラフィックが過激!



Jam Pedals **Rattler** [Distortion]

1970～80年代を席卷したあのディストーションを再現



▲ Rattler



▲ Rattler+

[Specifications] ●コントロール: Level、Tone、Gain ●スイッチ: ON/OFF、Gain Toggle (+のみ) ●端子: Input、Output ●サイズ: 60mm (W) × 111mm (D) × 32mm (H) ●電源: 006P (9V 電池) / 9VDC ●価格: open price (実勢市場価格: ¥19,950、+ = ¥23,100)

1970年代後半～80年代にかけてのロック・シーンで“定番”の地位を築いたプロコ“RAT”に敬意を表したディストーションが“Rattler(Classic)”及び“Rattler+”(“GAIN”切り替えスイッチ付き)だ。オペアンプは前者に“LM308N”(NOS)を、後者に“LM308”カン・ヴァージョンをそれぞれ選択し、特性の差別化を図っている。“GAIN”を最大付近まで上げた際には古いファズを思わせる圧縮感が生成されるものの、同ノブを9時以下に設定して“LEVEL”をメイクアップ・ゲイン的に用いた際には原音にリニアなオーヴァートーンを加味したサウンドが得られる点や、操作ポイントを吟味された“TONE”により“ウーマン・トーン”から開放的な音

色までを破綻なく再現できる自由度の高さは“RAT”の良さを忠実に受け継いでおり、代替機として用いても違和感はまったくない。



◀ “Rattler+”にはゲインを一段、引き上げる“GAIN TOGGLE”ミニ・スイッチが追加されている。

Jam Pedals **Delay Llama** [Analog Lo-Fi Delay]

知る人ぞ知るチベット僧にあらず、南米の草食動物なり



▲ Delay Llama



▲ Delay Llama+

[Specifications] ●コントロール: Delay Level、Delay Time、Repeats、Internal Trimmer (Max Repeat) ●スイッチ: ON/OFF、Hold (+のみ) ●端子: Input、Output、Expression Pedal Input (+のみ) ●サイズ: 94mm (W) × 120mm (D) × 30mm (H)、+ = 145mm (W) × 120mm (D) × 38mm (H) ●電源: 9VDC ●価格: open price (実勢市場価格: ¥26,250、+ = ¥32,550)

南米高地に生息するラクダに似た偶蹄目“リャマ”の名を持つアナログ・ディレイ。BBDチップにはマクソン“AD”シリーズで知られる“MN3025”(パナソニック製)をチョイスしており、“Lo-Fi Delay”とのキャッチ・コピーそのままのエフェクトを生み出す。ディレイ音の変質/劣化はリピートを経るにつれてミッド以下の帯域が減衰、結果的にハイ・ミッド周辺が耳に残っていく印象で、その際のレベルや解像度の落ち方も多くのプレイヤーに“音楽的”と評価されるだろう。シンプルなインターフェイスを備える無印と対照的に、“+”には1個のフット・スイッチと2個のエクスペッション・ペダル端子が増設されており、前者を踏めば他のパラメーターがどんな状態にあってもすぐに“発振”効果を得られる。この発振が始まった時点でエクスペッション・ペダルを操作してやれば、スペイシーなエフェクトの生成が可能だ。

## Jam Pedals **Red Muck** [Fuzz-Distortion]

個性豊かなプロが愛用するモダン・ファズ

“トライアングル”～“シヴィル・ウォー”期のエレクトロ・ハーモニックス“Big Muff”をベースにした回路から、強力な歪みを生み出すファズ／ディストーション。愛用するプレイヤーにはデイヴィッド・イダルゴ(ロス・ロボス)、ドゥイーゼル・ザッパ、グレッグ・コッケーら個性的な面々が並んでいるが、実際に試奏したところ、ヒステリックな高域や“無理矢理に引き延ばされたサステイン”といったアクの強さと同時に、どんなセッティングでも破綻のない、モダンなまとまりの良さをも感じ取ることができた。プレイ・スタイルやジャンルを選ばない、ヴァーサタイルなファズと言える。



[Specifications] ●コントロール: Level、Tone、Gain ●スイッチ: ON/OFF ●端子: Input、Output ●サイズ: 60mm(W)×111mm(D)×32mm(H) ●電源: 006P(9V電池)／9VDC ●価格: open price(実勢市場価格: ¥21,000)

## Jam Pedals **the Ripple** [Phaser]

2ステージ・フェイザーならではの魅力を再発見

MXRによるフェイザーの名機からあえて2ステージ動作の“Phase 45”を選び、レジスターやキャパシターといった電子部品の質にまでこだわって有機的なモジュレーションを再現したモデル。4、8、あるいは16といったステージの多いフェイザーのような複雑なうねりこそ得られないが、トーンの変化を把握・予測しやすい特性は2ステージならではのもので、ファンキーなカッティングにスピードの低い揺れを加え、グルーヴを強調するような場面で良好な感触を得られる。アウト・オブ・フェイズ・ポジションで低域が減衰した際、耳に痛い帯域が強調されない点も魅力的だ。

[Specifications] ●コントロール: Speed ●スイッチ: ON/OFF ●端子: Input、Output ●サイズ: 60mm(W)×111mm(D)×32mm(H) ●電源: 006P(9V電池)／9VDC ●価格: open price(実勢市場価格: ¥19,950)



## Jam Pedals **WaterFall** [Chorus / Vibrato]

外観に似合わない(失礼!)クリアな揺らぎ

アナログ・コーラス／ヴィブラートである本機は、その手作り感溢れる外観からは想像できないほどクリアなサウンドを身上としており、個人的にはTCエレクトロニックの名機“Stereo Chorus + Pitch Modulator & Flanger”を想起させられた。“アナログの温かさ”を謳う製品がしばしば陥る“ONにただで音がこもってしまう”ような特性とは無縁でありながら、耳に痛い帯域を強調してしまうこともない、実にうまく抑制されたトーンを具現化しているのだ。ナチュラルなアナログ・サウンドを求めるユーザーに安心して薦められる1台と言える。

[Specifications] ●コントロール: Depth、Speed、Internal Trimmer(Max Speed) ●スイッチ: ON/OFF、Chorus / Vibrato、Intensity Toggle ●端子: Input、Output ●サイズ: 66mm(W)×118mm(D)×40mm(H) ●電源: 006P(9V電池)／9VDC ●価格: open price(実勢市場価格: ¥26,250)

## Jam Pedals **The Chill / The Big Chill** [Sine-Wave Tremolo / Super-Tremolo]

表情豊かなトレモロ・エフェクトを使いこなせ！



▲ The Chill

[Specifications] ●コントロール: Level, Depth, Speed ●スイッチ: ON/OFF ●端子: Input, Output ●サイズ: 60mm(W) × 111mm(D) × 32mm(H) ●電源: 006P(9V電池) / 9VDC ●価格: open price (実勢市場価格: ¥19,950)



▲ The Big Chill

[Specifications] ●コントロール: Level, Depth, Speed 1, Speed 2, Internal Trimmer (Chop Level) ●スイッチ: ON/OFF, Square/Sine/Triangle Toggle, Speed 1/Speed 2, Chop Effect ●端子: Input, Output, Expression Pedal Input for Speed2, Expression Pedal Input for Depth ●サイズ: 120mm(W) × 94mm(D) × 30mm(H) ●電源: 006P(9V電池) / 9VDC ●価格: open price (実勢市場価格: ¥27,300)

サイン・ウェーブ・トレモロにブースター機能を加えることで、エフェクトON時の聴感上の音量低下を補正する“The Chill”と、その機能強化版である“The Big Chill”は、どちらも古いアンプから得られる効果を想起させる芯のあるサウンドが魅力的だ。後者ではフット・スイッチによる2種類の“SPEED”切り替えと“CHOP”エフェクトのON/OFFが可能で、LFO波形も3種類から選択できる。

## Jam Pedals **Dyna-ssor** [Compressor / Sustainer]

コンプレッサーの二大名機から“いいとこ取り”

MXR“Dyna Comp”、ロス“Compressor”という2大名機をかけ合わせた“Dyna-ssor”の名を持つこのモデルは、ソフト・ニーと形容される自然なアタックを維持したままの圧縮から、音の頭が“ペシャーン”と潰れる極端な圧縮までを操れる懐の深さを身上としている。“SUSTAIN”及び“LEVEL”パラメーターの双方を上げて行った際にも歪みやノイズは少なく、回路設計の優秀さを感じ取ることができた。その手作り感満点の外観から荒削りなエフェクトを想像していると、高度に洗練された音色に驚かされるというのは、ヤム・ペダル製品に共通する印象だ。

[Specifications] ●コントロール: Level, Sustain ●スイッチ: ON/OFF ●端子: Input, Output ●サイズ: 60mm(W) × 111mm(D) × 32mm(H) ●電源: 006P(9V電池) / 9VDC ●価格: open price (実勢市場価格: ¥19,950)



## Jam Pedals **Retro Vibe** [UniVibe]

15V駆動が生み出す豪快、かつファットな揺らぎ

1969年製ユニヴォックス“UniVibe”の重層的なピッチ・モジュレーションを再現したモデル。エフェクトON時にロー・ミッドが持ち上がるように感じるのは、オリジナルと同じ動作電圧＝15VDC(アダプターは9VDCを使用可能)にこだわった回路がモノを言っているのだろうか。キメ細かさや華やかさよりも豪快さや太さが印象に残る揺れは、歪ませたギターのようなパンチのある音源によく似合う。パネル上のパラメーターはふたつだけだが、基板上に“INTENSITY”を操作するトリム・ポットを装備しており、周辺機材に合わせたチューニングが可能だ。



[Specifications] ●コントロール: Depth, Speed, Internal Trimmer (Intensity) ●スイッチ: ON/OFF ●端子: Input, Output ●サイズ: 94mm(W) × 119mm(D) × 53mm(H) ●電源: 9VDC ●価格: open price (実勢市場価格: ¥30,450)

## Jam Pedals **Boomster** [Clean Silicon Booster]

シリコン・トランジスタを心臓部に持つシンプルな回路から、不要な味付けを排したブースト・サウンドを生み出すユニット。ピッキングに対する応答はスピード感があり、強弱のニュアンスが損なわれることもまったくない。バッファ・アンプとして使用した際にも申し分ない効果を発揮する1台。



[Specifications] ●コントロール: Level, Internal Trimmer (Gain) ●スイッチ: ON/OFF ●端子: Input, Output ●サイズ: 60mm (W) × 111mm (D) × 32mm (H) ●電源: 006P (9V電池) / 9VDC ●価格: open price (実勢市場価格: ¥14,700)

## Jam Pedals **Rooster** [Treble-Booster]

ヤム・ペダル製品の中でも最初に開発された本機はダラス“Rangemaster”を意識した回路を備えており、トランジスタにはゲルマニウム型が選ばれている。ブースト・レンジを選択するスイッチ、2時を越えた辺りから歪みを加える“LEVEL”を用いて積極的な音作りが可能だ。



[Specifications] ●コントロール: Level ●スイッチ: ON/OFF, Treble/Mid/Bass Toggle ●端子: Input, Output ●サイズ: 60mm (W) × 111mm (D) × 32mm (H) ●電源: 006P (9V電池) / 9VDC ●価格: open price (実勢市場価格: ¥23,100)

## Jam Pedals **Wahcko** [Wah-Wah]

英米のミュージシャンから高い評価を得ているこのワウは、迫真のヴィンテージ・サウンドとペダルを踏み込む際に感じる“重さ”を調整可能な機構を特徴とする。“+”はフィルター・レンジを6種類のプリセットから選択できるロータリー・スイッチを備え、より幅広い音作りに対応したヴァージョン。



[Specifications] ●コントロール: Internal Trimmer (Gain) ●スイッチ: ON/OFF, 6 Way Frequency Sweep Range (+のみ) ●端子: Input, Output ●電源: 006P (9V電池) / 9VDC ●価格: open price (実勢市場価格: ¥26,250、+ = ¥29,400)

## Jam Pedals **True-Bypass Box** [True-Bypass, A/B Switch]

2系統のセンド／リターンを装備することで、トゥルー・バイパス・ボックスの他にA/Bボックス、アンプ・チャンネル・セクターとしての使用にも対応した小型、かつシンプルなスイッチャー。パッシブ回路だが、9VDCを供給すれば内蔵LEDインジケータを発光させることができる。



[Specifications] ●端子: Input × 2, Output × 2 ●サイズ: 38mm (W) × 92mm (D) × 32mm (H) ●電源: 不要 (インジケータ LED 発光のためには9VDCが必要) ●価格: open price (実勢市場価格: ¥8,400)

## Jam Pedals **Custom Multi-Pedals**

インタビューで語られたように、ヤム・ペダルではオーダーに基づく“Custom Multi-Pedals”の製作も手がけている。写真に示したのはその一例で、数ある同社製品の回路を複数(最大12個まで)収納、各エフェクトごとのON/OFFフット・スイッチを装える筐体に、カスタム・ショップがフィニッシュを行なったものだ。その表現手法はペイントにとどまらず、時にはツイード生地を貼ったもの、ギリシャの切手や新聞を貼ったもの(!)のように立体の領域にまで踏み込むことがある。

